平成 24 年 11 月 28 日

各　位

会　社　名　　株式会社　　東日本銀行
代 表 者 名　　取締役頭取　石井　道遠
(コード番号　　8536 東証第 1 部)
問 合 せ 先　　取締役経営企画部長 本田　修
(TEL. 03－3273－4073)

格付据置のお知らせ

当行は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせします。

記

1．格付機関　　株式会社日本格付研究所(JCR)
2．格付　　A-　(据置)
3．格付の見通し　　「安定的」
4．格付の種類　　長期発行体格付
5．格付の理由

(1) 東京都中央区に本店を置く資金量 1.7 兆円の第二地方銀行。首都圏を中心に広域展開しており、預貸率や中小企業向け貸出比率の高さなどが特徴。預貸金とも増加傾向にあり、貸出金残高は不動産賃貸業向けを中心とする中小企業向けが好調に推移している。11 年 3 月の公的資金完済以降、積極的に取り込んでいる地方公共団体向けや大企業向け貸出も残高全体を底上げしている。

(2) 業種別の貸出金構成をみると不動産業向けが 3 割と高い点が特徴であり、その大半を賃貸管理業向けが占める。賃貸物件の入居率や賃貸料などの動向に注意を要するものの、09/3 期に多額の与信費用を計上する要因となった売買業向け貸出は大きく減少しており、貸出金全体の 1 割未満にコントロールされている。

(3) 与信費用は減少傾向にあり、12/3 期は戻入超過、13/3 期上半期は 10 億円と通期計画 30 億円を下回る。金融再生法開示債権比率も 13/3 期上半期末で 3.34%(仮に部分直接償却をした場合は 2.99%)と抑制されている。円滑化措置への対応で不良債権に区分していない先や未保全額が大きい一部の債務者の業況によって与信費用が短期的に膨らむ可能性はあるが、貸出金の小口分散が効いている点などを踏まえると、中長期的には落ち着いた推移をみせると JCR は考えている。

(4) 預証率は 2 割と低く、金利上昇に備えて中期債を中心に購入しているため、Tier Ⅰ資本対比でみた保有債券の金利リスクは小さい。株式や投資信託の評価損が拡大しているなど改善余地もあるが、保有株式については残高を圧縮することで価格変動リスクを削減している。総じて、有価証券部門で抱えるリスクは経営体力比で管理可能な水準とみられる。

(5) コア業務純益は貸出金利回りの低下などで減少傾向にあるが、総資金利ざや、ROA(コア業務純益ベース)などの収益性指標は業界平均並みの水準を維持している。与信費用の落ち着きや保有債券の益出しなどで内部留保の蓄積は進展し、13/3 期上半期末の連結 Tier Ⅰ資本は最終赤字を計上した直前の 08/3 期末(公的資金を除くベース)を上回った。もっとも、連結 Tier Ⅰ比率は 13/3 期上半期末で 7.79%と、A レンジの地域銀行としては依然課題の残る水準であり、最終利益の水準を引き上げるなどして資本の充実度を高めていけるかが格付上の注目ポイントである。

以　上